

あたらしくはいった本 (平成31年2月 貸出開始資料から)

- 小説 十津川警部怒りと悲しみのしなの鉄道(西村京太郎/著)
散歩するネコ(群ようこ/著) つくもがみ笑います(畠中恵/著)
星をかすめる風(イジョンミョン/著) 帰去来(大沢在昌/著)
テレビ探偵(小路幸也/著) ピーク(堂場瞬一/著)
ゴールデン街コーリング(馳星周/著) ミッテランの帽子(アントワヌ・ローラン/著)
- 随筆・詩などの文学 私が作家になった理由(阿刀田高/著)
いい女、ふだんブツ散らかしており(阿川佐和子/著)
東海道ふたり旅(池内紀/著) 用事のない旅(森まゆみ/著)
世界の家族/家族の世界(椎名誠/著) Go Go! 介護(津田かおり/著)
- その他の本 その症状って、本当に認知症?(朝田隆/著)
この先をどう生きるか(藤原智美/著) 還暦着物日記(群ようこ/著)
ミニ枯山水の世界(柗野俊明/著)
福岡かるた風土記(岡部定一郎/著)
新・患者学(前納宏章/著) 角さんとじゃじゃ馬(田中眞紀子/著)
家政婦makoのずぼら冷凍レシピ(mako/著)



『テレビ探偵』
小路幸也/著
株式会社KADOKAWA



『いい女、ふだん
ブツ散らかしており』
阿川佐和子/著
中央公論新社



『福岡かるた風土記』
岡部定一郎/著
西日本新聞社

みんなの としょかん



市民図書館

TEL (921) 4646

FAX (921) 4896

<http://www.library.dazaifu.fukuoka.jp/>

としょかんカレンダー

平成31年	日	月	火	水	木	金	土
4	①	2	3	4	5	6	
	7	⑧	9	10	11	12	13
	14	⑮	16	17	18	19	20
	21	⑳	㉑	㉒	㉓	26	27
	28	29	⑳				

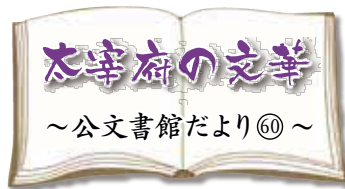
○のついた日は休館日

金・土曜日(祝日を除く)は午後7時まで開館しています。

平安時代中期・後期の太宰府

日本史における時代の呼び名のひとつに平安時代があります。この平安時代とはいつからいつまでなのかという点について、わたくしは784年(長岡京遷都)〜1185年(源頼朝による鎌倉政権の確立)と考えています。また日本史における時代区分に、原始・古代・中世・近世・近代・現代という分け方があります。これまで古代は、飛鳥時代・奈良時代・平安時代をいう、とされてきましたが、近年では、古代を平安時代中期(931年〜1068年)までとし、中世を平安時代後期(1068年〜1185年)からとする考え方が有力になっており、高校の日本史の教科書でもすでにこの時代区分が採用されています。

平安時代、とくに中期・後期に関する研究が充実してきたのは、ここ30年くらいのことといえます。それは、この時代を考えるための材料となる貴族の日記類などの史料が公刊されるなどして、広く共有されるようになったためです。その結果、平安時代中期・後期における政治や財政のあり方の変化もずいぶん明らかになってきました。たとえば中央政府の財政は平安時代中期に、調・庸といった地方からの税がなかなか納入されないという事態をうけて、



～公文書館だより⑥～

その収取システムが大きく変わっていくことになりました。

さて、この時代の太宰府についてまず想起されるのは、太宰府政庁跡第三期建物の成立でしょう。それ以前にあった政庁跡第二期建物は941年、藤原純友によって焼き討ちされますが、発掘調査の結果によって、焼失からそれほど時を経ずして再建されたと考えられています。

〔太宰府の下級官人、おもに監・典およびその権官・代官〕とされる人々の活躍が目立ち始めます。一方で、ほぼこの頃から太宰府の長官に公卿(三位以上の位階をもつ貴族)が任命されるようになったとの指摘もあります。また、財政的にみても、中央政府の収取システムの変化にもなつて太宰府財政のあり方も変わつていったと考えなければなりません。平安中期・後期における太宰府に関する研究は、いま述べたようにまったく新しいわけではありませんが、必ずしも多くないのが現状です。わたくしは、前述のような中央政府の動向を常に念頭に置きつつ、この時代の太宰府を検討してみることが必要だと考えています。

太宰府市公文書館 重松 敏彦